

令和5年度における取組等に対するその後の対応報告及び評価

開催日	学外委員からの質疑・意見	その後の取組状況	自己評価(案)	評価	評価に関する学外委員からのコメント
令和5年度 第2回 令和5.11.2 (木)	<p>外部資金等の獲得方策について －統合報告書について (完成報告)－</p> <p>○企業もSDGsやESG経営ということが言われているので、そういう視点で目指していくというのは、大変重要なことではないかなと思う。</p>	<p>今年度の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学理科教育講座 大鹿聖公教授が西川コミュニケーションズ株式会社と「マスキングテープを用いた学校教育におけるSDGs教材の開発」について共同研究を行い、研究経費を受け入れた。(研究期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日) ・外部資金等の獲得の一助となることを目指し、8月21日(水)に開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2024(主催：アサヒ飲料(株))」において、参加企業へ研究シーズ一覧を配布し周知を図った。 	○	○	特になし
令和5年度 第4回 令和6.1.25 (木)	<p>令和6年度国立大学法人運営費 交付金等予算額(案)の伝達における 評価結果について</p> <p>○大学教育改革に向けた取組の実施状況が、前年度、前前年度も順位的に低いので配分率としては変わらないが、具体的に何か改善の方法や今後の対応などで、検討されていることがあるか。</p>	<p>今年度の取組状況</p> <p>◎概要</p> <p>大学教育改革に向けた取組の実施状況に係る評価指標は4つあり、「令和6年度の取組状況」は、以下のとおりである。</p> <p>なお、令和7年度国立大学法人運営費交付金は、令和6年度の取組実績により、前年度と比較して配分額が1,186千円増額されたが、配分基礎額21,552千円に対して配分額は17,242千円で、評価結果は▲4,310千円(評価対象グループ27大学中23位)【別紙参照】となっており、依然として改善の余地があるため、自己評価(案)は、「取組は行われているものの更なる取組を期待する。」とした。</p> <p>【評価指標1】</p> <p>「成績表以外で学修成果を可視化し、就職活動時に企業等に分かりやすく提示する取組を実施する。」</p> <p>(令和6年度の取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程 <p>学生の履修科目に基づいてディプロマポリシーの達成度を算出して可視化し、履修カルテの一部として活用することについて関連委員会で審議の上、教授会で報告し、共通理解を図った。一部授業科目では、受講生を対象として試行的に導入している。</p> <p>今後、学位に関する個人別の証書である「ディプロマ・サプリメント」を発行する予定であり、履修カルテのシステムと連携を行うための技術的な検証を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程、博士課程 <p>修士課程では、令和5年度にディプロマポリシーの到達指標8項目を委員会で策定した。今後、学生の到達目標への達成度を客観的、多元的に可視化するための指導体制及びシステム構築する予定である。</p>	△	△	今後とも、更に取り組んでいただきたい。

開催日	学外委員からの質疑・意見	その後の取組状況	自己評価（案）	評価	評価に関する学外委員からのコメント
		<p>【評価指標 2、3】 「卒業（修了）生に対する追跡調査を実施する。」、 「追跡調査結果をデータベース化し教育改善につなげる組織的な取組を実施する。」</p> <p>（令和6年度の取組実績） 本学卒業生（修了生）の現在の就業情報とともに学生生活への満足度や学修成果を把握するための追跡調査を実施した。 今後は、調査結果をデータベース化し、本学の教育による学修成果等の検証を行うことで、教育に関する内部質保証、そして教育のさらなる改善につなげるための体制を構築することとしている。</p> <p>【評価指標 4】 「社会で広く活用できる汎用的なスキルを身につけられるよう組織的なプログラムが整理された上で可視化を実施する。」</p> <p>（令和6年度の取組実績） 修士課程においては、ディプロマポリシーへの到達目標とスキル項目とを関連付けて、授業科目との対応を整理する方向で検討を進めている。博士課程においては、他大学を参考に検討を進めている。</p>			

【評価方法について】

- ・令和5年度に学外委員から出た本学の取組等に対する意見について、令和6年度（今年度）にどのように取組んだかを報告し、評価を受ける。

【評価基準について】

- ・今年度の取組状況について以下の評価基準で評価を受け、併せて評価に対する学外委員からのコメントをいただく。
「○」：十分に取組んでいる。（引き続き取組を期待する。）
「△」：取組は行われているものの更なる取組を期待する。
「×」：全く取組めていない。